

第3回平塚市新文化振興指針策定検討専門委員会の概要

日 時：平成21年11月20日（金） 14：00～16：00

場 所：平塚市民センター大会議室

出席者：小中山委員長、平野副委員長、石井委員、石川委員、岩崎委員、大野委員、中野委員、森委員
（事務局）関本市民部長、増田文化・交流課長、阿部文化交流課課長代理、小菅主管

欠席者：土井委員

【次第】

- 1 開会
- 2 委員会傍聴者入室について
- 3 議事録について
- 4 議題
(1) (仮称) 平塚市新文化振興指針について
- 5 その他
- 6 閉会

【議事録】

事務局：[資料説明]

委員長：ただ今の説明に対して意見や質問があれば出していただきたい。前回からの変更点を説明してもらった。全体を通して意見があれば出していただきたい。全体としては、特にご意見はないということなので、第1章から順に検討をしていきたい。

委員：文化の範囲を説明する図はわかりやすい。ただ、文章では、「文化芸術を中心に据えます」「産業・・・も対象にします」とあるが、図では土台のように感じる。

委員長：図は上位、下位という概念なのか、ぐるりと文化芸術を取り囲んでいるという概念なのか。

事務局：「文化はおよそ人間と人間の生活に関する総体を意味する。文化芸術は中核である」という国の基本方針の考え方になっている。今回の指針で取り扱う文化は平成5年の基本構想では、緑や景観等の環境整備、文化的な景観を進めていく記述があり、それに沿った形を考えている。

委員：文化は、底流に流れるものがあって、それが基盤となって最終的な姿として現れているものがある。そのもとになっているのは、心象風景というものがあって、最後に芸術文化が生まれる。それらは関連性を持っているのは当然のことである。

関連の中に産業や都市計画があったりして、文化芸術を支えているということによいと思う。その時に、視点によって物事が変わってくる。全体をとらえるときのとらえ方と、個別に、例として捉えることとは違うのはやむをえない。総体的にはこれでよいと思う。

委員長：「対象にします。」は気になる。この対象には、具体的な形になっていない。整合を取るといふニュアンスでとらえている。産業の部分はどこに入っているのかという感じがしている。「整合性を取ります」という文言がよいのではないか。

委員：文化の基盤として捉えます。それらが基盤となっていることを十分に認識した上で、という表現ではどうか。

委員長：もっと狭い範囲で捉えてもよいのではないか。

委員：例えば「文化芸術」を真四角に近い形で、「基盤」としてあるならば、他は台形のような形でくくって、土台のような表現をしてはどうか。

委員長：土台風な図を検討していただきたい。

委員長：第2章の現状と課題では何か質問はあるか。「舞台」という表現が気になる。適切に使われている部分と、ここに使ってよいのかという部分がある。

委員：文化行政の進行管理で、「基本構想の基本理念は」を「市民文化基本構想の基本理念は」

- とわかりやすく表現してほしい。
- 委員長 : 専門的な視点の必要性の「専門的な人材の」を「専門的な人材を」に修正してほしい。
また「市民との協働の仕組みづくり」の中で、「仕組みを『より』充実します」としてはどうか。現在やっていないように感じるので、「より」を入れた方がよい。「文化芸術活動を『今よりも』または『さらに』協働して・・・」とした方がよい。
- 委員 : 基本目標でひらつか文化の場づくりで「多文化共生」「国際交流」といったことを入れてほしい。どこが適切なのかはわからないが、内側だけで完結しない、発信していくニュアンスを入れてほしい。
- 委員長 : 「より広い視点をもって」「より広い文化の人を取り込んで」そのような言葉を入れていけばよい。
- 委員 : 出身国の文化を伝えることではなく、外国籍の人の視点も大事だと思う。伝統文化に外国籍の人が興味を持てば、その担い手にもなりうる。
- 委員 : それは指針の後半に記載があるので、前の方にもそのような視点を入れてほしい。
- 委員長 : 「専門的な視点の必要性」について「支える」だけではなく、「多様な文化を『発掘する』、『創造する』」を入れてほしい。また「ひらつかを舞台にアーティストを育成し」が気になる。「ひらつかを活動の中心としているアーティストを育成し」としてはどうか。
- 委員長 : 次に第3章を検討したい。サブテーマを出していただきたい。
- 事務局 : 事務局で他市の事例等をまとめたものを参考資料として作成したので、配布させていただく。
- 委員長 : 前回検討した「市民とともに創造し、継承する心豊かな文化都市ひらつかを目指して」が良いと思う。
- 委員 : 私も「市民とともに創造し、継承する心豊かな文化都市ひらつかを目指して」が良いと思う。
- 委員 : 「心豊か」が抽象的過ぎて、何が言いたいかわからない。あちらこちらで使われている。
- 委員 : 幅広くてよいのではないか。
- 委員長 : 「舞台」ということを強調したいのであれば、「湘南ひらつかを舞台に・・・」としてはどうか。
- 委員 : 舞台という言葉はいろいろな場面で出てくると思うが、どのような場面に使われるのか。
- 事務局 : 表紙でついたり、指針を紹介する場合に枕詞のように使われることもある。
- 委員 : テーマを引用して表現することがありうるということですね。
- 事務局 : より具体的なイメージを沸かせるために使われるのが、サブテーマの役割である。
- 委員 : それではサブテーマは長すぎてもいけない。
- 事務局 : 適度な長さがよい。
- 委員 : 文化情報誌『たわわ』の記事にある「未来に響け、心と心のハーモニー」ではどうか。
- 委員 : 『豊か』にこだわるが、「市民とともに創造し、継承する文化豊かな都市ひらつかを目指して」ではどうか。
- 委員 : 指針の流れから行くと、現在の平塚市は文化的にさびしいので、どんな風に市の雰囲気になっていけばという到達目標、出来上がりの姿がサブテーマの中になければいけない。読む人がいろいろな解釈を思う。上から目線になっていない方がよいと思う。「市民とともに」は主語は誰かと思う。全員で作るのだというこだわりを文言に持ちたい。指針の文化振興施策の方向で掲げる取り組みを行った結果として出来上がった姿がわかればよい。どれがよいかは難しい。
- 委員長 : サブテーマの検討ばかりになってしまうので先に進み、また時間を見計らって戻ってきたい。サブテーマ以外の部分でご意見、ご質問があればお願いしたい。
- 委員 : 重複しますが、多文化共生、国際交流を「ひらつか文化」の説明の中に入れてほしい。
- 委員長 : 学問的には「異文化」を使うが、違和感があるということか。差別的な用語にとられるのか。
- 委員 : 「異人」も使ってはいけない言葉になっていると承知している。

- 事務局 : 神奈川県も国際交流を推進するために「多文化共生を目指して」を前面に出している。
- 委員長 : 「異文化」は使っていないということですね。
アーティストの支援で「プロやより専門的な活動を行うためには」は「職業的又はより専門的な」という表現の方がよい。
- 委員 : 「プロ」という言葉はとつてもよいと思う。
- 委員長 : 「舞台」という言葉がまた出てくる。
- 委員 : 「本市を中心に」とすればよいのではないか。
- 委員 : 平塚市から発信するということを表現している。
- 委員長 : 意図はわかるが、違和感がある。
- 委員 : 最近、すべての人間の活動がある意味で、演劇性を帯びていると思う。その人がやろうとしていることや自分をアピールするために「舞台」「パフォーマンス」という言葉が使われることが多い感じがする。
- 委員長 : この点を再考をしてほしい。
- 委員 : 「新たなステップへの扉を開けて、より高いレベルの活動・・・」も再考してほしい。
- 委員長 : 「アーティストの誕生を目指します」は「アーティストの誕生を支援します。」とした方がよい。
- 委員 : 狭義の芸術家は、本人の熱情の赴くままに活動しているのが、本来のあり方だと思う。
振り返ると、絵でも、音楽でも莫大なスポンサーがいて、芸術家を育てる風土があった。しかし、現在では独裁的な立場の人間は、民主主義の時代には成り立ち得ない。それに取って代わるものは、一つは市民から託されている行政の力に頼らざるを得ないと思う。個人や団体だけに頼るといことはできない。行政、そして一部の支援者が無償の気持ちで支えるということしかなくなってしまった感じがある。
ある個人が特定の人をバックアップすることができなくなった世の中においては、行政や多くの市民が浅く、広く支えない限り、その芸術家を育て、維持し、発展させることができないということだと思う。そのようなことが「アーティストの支援」の中に込められていると思う。
今日の新聞に載っていたように、平塚市出身の〇〇さんと縁があって、私が行っていたことと相通じるものがあつたために、無償の奉仕のような形でできている。
思いを投げかけるに足りる人が現れれば、市民が浅く広く無償の奉仕をすることもやぶさかではない。それが、これからの文化芸術を支える力になってくると思う。
アーティストの育成は、行政が担わざるを得ないと思う。一部の財をなした人が趣味と道楽でアーティストを育てることができなくなっているの、行政が支える形にならざるを得ないのではないか。
- 委員長 : 一般の人ではなく、より専門性の高い人を対象とするということである。
- 委員 : アーティストを育てるためには発表の場、練習の場、お金が必要であると思う。このような施策でアーティストを育てることができるのか。
- 委員 : 音楽の場合、公演をするためにはすごく費用がかかる。それは、行政や国に支援してもらわないと、入場料だけではできない。演奏する場、公演する場を支えてもらわないと、どんなに優秀なアーティストがいても場所がなければ育たない。
最近では、経済的に黒字にならないものには費用を出さない、無駄だからやらないという傾向があるように感じる。商業芸術は発展するが、それ以外は商売にならないということになると本当の芸術は廃れてしまう。
お金にならないものでも、精神的なもので、「高いもの」はあると思う。それらを行政に支えてもらえれば、それに関わるアーティストは育っていくと思う。その支援がないために、みんな他で働きながら、文化芸術活動を続けているのが現状である。
- 委員 : アーティストの支援、育成は本当に重要だと思う。また場づくりが必要である。これまで日本で売れてなかった人が、ある美術館が取り上げたことで、世界で人気になったという事例がある。平塚でもそのようなことができれば、人材が育つかも知れない。

- 委員 : 若い芽を育てたい。その場がほしい。
- 委員長 : 支援の仕方はいろいろな形があると思う。平塚で行う支援は、平塚の土地を離れた者の支援は想定していないのか。例えば、奨学金を出して留学を支援することを想定しているのか、あくまでも平塚に根を下ろして活動する人のみが対象なのか。
- 事務局 : 基本的には、世界に羽ばたく新進芸術家の人材育成、海外研修等は国が行っている。平塚市の場合は、例えば、新進の芸術家の個展を美術館です。まちかどギャラリーですといったことを想定している。国、県がやることと住み分けをして、市がやるべきことは何か課題になってくると思う。
- 委員長 : 「文化のまちづくり」で「HPを通じて・・・」とあるがHPは有効である。最近では、ブログがうまく情報媒体として活用されている。行政や市民一人ひとりがブログを書くということも非常に有効な情報媒体であるということも心に留めておいてほしい。
- 委員 : 私は、ブログでなくても、広報に十分情報はあると思う。しかし、一方で若い世代は新聞を取っていない人が多い。ブログが媒体になっている可能性がある。我々の感覚では考えられないが、それは時代の流れで仕方がない。
- 委員長 : 囲碁の同好者のブログはあると思う。そのようなところに、平塚のことを売り込む、宣伝するといったこと、ミニコミ等にも、丹念にブログで取り上げてもらう形は考えられる。それはロングテールの一つの考え方につながると思う。
- 委員 : 「本市を中心に文化芸術活動を行うアーティストが「ひらつか文化」を足がかりに、より高いレベルの活動を展開できるように支援します」としてはどうか。
- 委員長 : 「支援します」と「支援する取組を行います」という表現で違いがあるのか。
- 事務局 : 全体的な方向性を示すものなので、バランスを取りながら表現している。
- 委員 : アーティストの支援で「プロや」を削除した方が良いと思う。
- 委員長 : 「職業的なより専門的な」という言葉でもよい。
- 委員 : 職業にしていない人でも専門的な人もいると思う。
- 委員 : 「より専門的な」としてはどうか。
- 委員長 : 「プロを含むより専門的な」としてはどうか。
- 委員 : ここでは、人のことではなく、活動のことを表現している。
- 委員長 : 次に体系についてご意見をいただきたい。
- 委員 : 「地域で支える文化ネットワークの構築」に多文化共生、外国籍市民という表現を入れてほしい。
- 委員長 : 「地域で支える多様な文化ネットワーク」としてはどうか。
- 委員 : 「(3) 文化を通じた交流の推進」に国際交流や多文化共生があるので、そちらを膨らませたほうが良いのではないか。
- 委員長 : それらを一緒にする方がよいのか、分けたほうがよいのか。(3)に『多様な文化』の文言は入っている。4章を見れば意図するところはわかると思う。
- 委員 : 国際交流的な内容は入っているのでそれで対応できるのではないか。国際交流というと、外から来訪する人との交流というイメージがある。平塚で暮らしている外国籍の人と一緒に暮らしていくということがわかるような表現であればよい。
- 委員長 : 文化芸術基本法はあくまでも日本のことで、外国の人を受け入れる、融合するという視点がない。国際文化交流の推進とあるので、それに含まれていると思う。
- 事務局 : 友好都市と市民休養の郷、多文化共生と整理しないといけない。多様な文化や民族の違いを理解し、それを認め合うという多文化共生を目指しますという国内交流と国際交流は意味合いが異なる。2つに分けて整理をしたいと思う。
- 委員 : 市民協働の例として「第9のつどい」「市民合唱祭」が記載されているが、これらは日本全国当たり前のように実施している内容である。平塚独自のものとしては「市民オペラ」や平塚市を題材にしたミュージカルなどがある。このため、「市民オペラ」やミュージカルなど市民と協働による取組が活発に行われています(定着しています)。とした方がよいと思う。

- 委員長 : 指針に入れるのであれば、ユニークなものの方が、アピール度は高い。「・・・以外にもユニークな市民オペラやミュージカル等」としてはどうか。
- 委員 : ミュージカルは平塚の民話のミュージカルである。そのようなことも強調してほしい。
- 委員 : 今お話しにでているものは平塚でできたミュージカルである。
- 委員 : 平塚市の各地域にはすばらしい伝統芸能がある。しかし、平塚市では市民が一堂に会するお祭りが無い。それらを新しく作ってはどうかと思う。地域代表で出演し、市民の皆さんが見て、それを競う要素があればよいのでないか。新しい祭りを創造することをやってほしい。地域代表の出し物を観客の前で競うことはモチベーションが高くなると思う。
- 委員長 : 中原には祭りがある。一堂に会する
- 副委員長 : 平塚市も徐々にそのような傾向にあると思う。パレードでデモンストレーションをするような動きはある。
- 委員 : 4～5年前に、真田、田村等の4から5つの祭りが一堂に会する催しがあった。
- 副委員長 : 関心のある人が取り上げつつある。それが広がると良い。
- 委員 : それをぜひやってほしい。
- 委員長 : 宣伝してやれるとよいと思う。いろいろなアイデアが出てくるのを活かしていただきたい。
- 事務局 : 「ふるさとひらつか」市民の共感を得られるのではと表現を使っているが、委員の感想を聞きたい。
- 副委員長 : 自然環境を守っていくことは必要である。自然環境は破壊されつつある。守ってほしいと思う。
- 委員 : 「ふるさとひらつか」という言葉は良いと思う。平塚から外へ出て、初めて「ふるさと」は大事に考えることなので、入れておいた方が暖かい感じがする。
- 事務局 : この表現が唐突に出てくる感じがしないか意見を伺いたい。
- 委員長 : 唐突であるという気がする。
- 委員 : どこかほかの場所にも入れればよい。
- 委員 : ふるさとで象徴になるものがあるとよい。「日本といえば富士山」といった感じで、「平塚といえば」というものはないのか。ふるさとの象徴になるものがあるとよいと思う。
- 事務局 : 安藤忠重の東海道53次の高麗山があるが、実際には大磯町である。
- 委員 : そのような象徴的なものがあると指針の表紙にもできる。何かと結び付けたい。
- 委員長 : 平塚といえば湘南平塚ですね。前段の方で「ふるさとひらつか」を入れておいたほうが良いかもしれない。「ひらつか文化」の中に「ふるさとひらつか」という言葉が入っていない。「ひらつか文化」の一部として「ふるさとひらつか」の言葉が入る形にしておいたほうがよいと思う。
- 委員 : 平塚の文化だから「ふるさと」として愛着を沸くような施策が行われてはじめて「ふるさとひらつか」の意義があると思う。そう思ってもらえるようなまちづくりの結果が、「ふるさと」として心に持ってもらえるのだと思う。結果として「ふるさと」という概念がその人の中に自然に生まれてくるようなものをすればよい。昔の田園風景等の原風景としてあったものとはちょっと違うと思う。まちづくりの中に、心のふるさととして持ってもらえるような施策が必要であると思う。
- 委員長 : サブテーマの中に「ふるさと」という言葉を入れればよいのではないか。「ひらつか文化」の中に説明に「ふるさと」という言葉がはいてもよい。
- 事務局 : 「ひらつか文化」は、絵や写真を使用して表現したい。見た人がいろいろなイメージができるようにしたい。このようなものを掲載すればよいのではないかというご意見をいただきたい。
- 委員 : 平塚駅南口広場の人魚像を入れていただきたい。最近、像を洗って、塗りなおして、きれいになった。駅南口を通る人は平塚に帰ってきたと思えるポイントになったと思う。また、人魚像がきれいになったことと関連して、公園をきれいにしてバラを植えるなどの活動をしている。噴水も時々噴き出しているが、水を当てすぎると像が痛むということがわかった。

- 委員 : 文化勲章を受賞した澤田政広氏の作品で全国に4体あるうちのひとつでオリジナルの作品である。以前、マーメイド構想というものもあったそうである。とてもよい銅像だと思う。
- 委員長 : 現風景としてのふるさと、ほっとする、心の安らぎを感じられる。自分のアイデンティティをもたらしてくれるもの、それがふるさとであると思う。
- 委員 : 市内で富士山が最もきれいに見られるのは、平塚伊勢原線だと思う。また、市外でいろいろな所に行ってみて、改めて平塚を見直した。自然もよい。人とのつながりもよい。それを最近感じている。
- 委員 : 全国レベルで誇れるものはないが、産業、農業、漁業すべてがある。全国区は七夕まつりぐらいである。
- 委員 : 絵や舞台等の観客、支援者の視点がほしい。そのような人たちがいて、文化は振興していくので、自分はやらないけれど、理解はしますという人を増やすことが表現として入らないかと思う。
- 事務局 : この指針の中で入れている。文化を見る側もひらつか文化を担っているということは視野に入れている。
- 委員 : ワークショップで集まった人がそれらを発表できる機会を設けたら、これまでに一番たくさんの方が見に来てくれたことがあった。裾野を広げる機会を文化財団を中心とした様々な催しの中で取り組んでいきたいと思う。私もそのような機会を基に、勉強会等をこれまでもしてきた。知的な好奇心を高める機会もある。自分自身はアマチュアであるが文化に関する取り組み方によって、いろいろなものが広がっていくと思う。
- 委員長 : よいか、悪いかはわからないが、基本目標は5つあって、「2 アーティストの支援」だけが「づくり」になっていない。本来ならばひらつか文化を担う人づくりと統合してもおかしくない。しかし「2 アーティストの支援」は統合すると見づらくなる。
- 事務局 : ふたつに分けた考え方は、裾野の拡大が「1 ひらつか文化を担う人づくり」、「2 アーティストの支援」は頂点の伸張を意味して、ひらつか文化をリードする人の支援、育成になっている。
- 事務局 : 前回会議でこの委員会で残したいという意見があったことを尊重している。
- 委員 : 「1 ひらつか文化を担う人づくり」、「2 アーティストの支援」は一緒でもよいと思う。
- 委員 : 文化振興は、核となる人がいないとまずいと思う。文化とは、言葉は悪いがみこしに乗ってくれる人が必要である。そのような人がいることによって、文化活動をする人も、支援する人も集まってくれる。トップの人はみこしの上に載ることも一つの役目であると思う。一部の人の利益に結びつくのではなく、文化の広がりを作ってもらえる人は必要だと思う。
- 委員長 : もう一度、サブテーマに戻りたい。
- 委員 : サブテーマは基本理念を補完するものである。市民参加、協働がある。基本構想では「市民文化の創造」とある。市民と一緒に創造するということ「市民とともに・・・」が良いと思う。
- 委員長 : 「心豊かな」の代わりに「ふるさと」という言葉が入るとよい。
- 委員 : もしくは「自然」という言葉が入るとよい。
- 委員長 : 「自然」「歴史」
- 委員 : 「市民がともに」ではどうか。市民の中にはイニシアチブをとる人がいて、応援する人もいる。いろんな人、大勢の人が参加できるのが良い。
- 委員 : 「未来を開く」がよい。動きがある、進んでいくという気持ちがある、国際化で横にも広がっているイメージがある。縦横に広がる文化がよい。
- 委員長 : 「ふるさとひらつかを舞台に（市民が）伝えあい・結び合い・ふれあい・平塚文化を創造します」ではどうか。
- 委員 : 長いので「ふれあい」をとってはどうか。
- 委員 : 長いけど泥臭いほうがよい。サブテーマなので長くてもよい。
- 委員長 : 「ふるさとひらつかを舞台に、伝えあい・結び合い・ふれあい 市民文化の創造・発信をします」ではいかがか。

委員 : 「ふれあい」はなくてもよいのではないか。
委員長 : 3つあるので、すわりが良いのではないか。
事務局 : 「ふるさとひらつかを舞台に、伝えあい・結び合い・ふれあい 市民文化の創造・発信を
します」は事務局としては異論ありません。
委員長 : 委員の皆さんの異論がなければ決めたいと思う。本日予定していたほとんどの課題は議論
をされたと思う。
事務局 : [あいさつ]
次回日程について、2月最終週に開催したい。
委員長 : 次回の調整をさせていただきたい。それでは、2月24日(水)14時からとさせていただ
きたい。
事務局 : [閉会あいさつ]